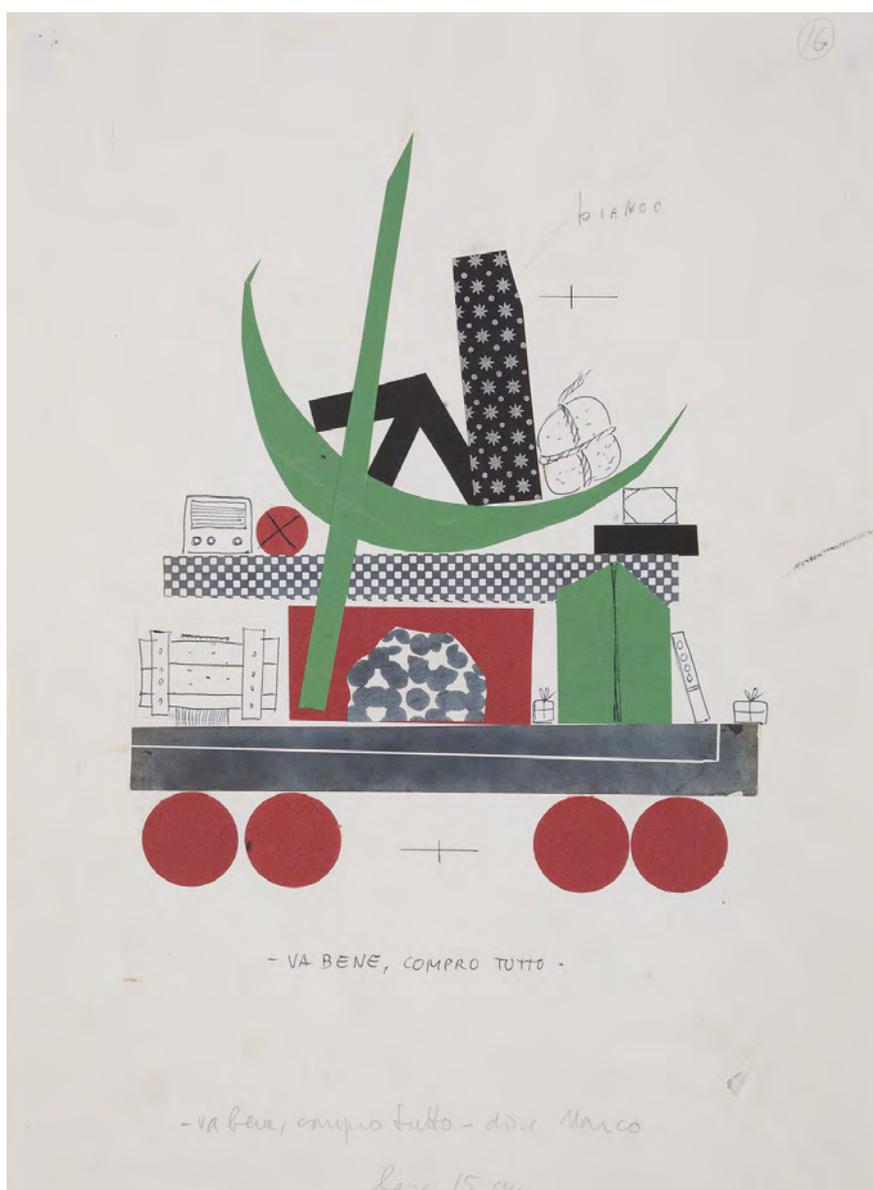


プレスリリース Press Release

BRUNO MUNARI

Quello delle Macchine Inutili

ブルーノ・ムナリ
役に立たない機械をつくった男



①《わかったよ。みんな、買うよ。ジャンニ・ロターリ『カリススツラーの惑星』のための挿絵の習作》
制作年不詳（1962年）鉛筆、ボールペン、コラーージュ、紙 330×240 mm ヴィス大学 CSAC

2018.11.17 SAT - 2019.1.27 SUN

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2 www.setagayaartmuseum.or.jp

BRUNO MUNARI

Quello delle Macchine Inutili

開催概要

展覧会名	ブルーノ・ムナーリー役に立たない機械をつくった男 Bruno Munari: Quello delle Macchine Inutili
会期	2018年11月17日[土] - 2019年1月27日[日]
会場	世田谷美術館 Setagaya Art Museum 〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2 Tel. 03-3415-6011(代表) www.setagayaartmuseum.or.jp
主催	世田谷美術館 (公益財団法人せたがや文化財団)、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援	イタリア大使館、イタリア文化会館、世田谷区、世田谷区教育委員会
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
協力	アリタリア - イタリア航空、日本通運
特別協力	特定非営利活動法人市民の芸術活動推進委員会
出品協力	パルマ大学 CSAC
開館時間	午前10時～午後6時 (入場は午後5時30分まで)
休館日	毎週月曜日および年末年始 (2018年12月29日[土]～2019年1月3日[木]) *ただし、2018年12月24日[月・振替休日]、2019年1月14日[月・祝]は開館。 2018年12月25日[火]、2019年1月15日[火]は休館。
観覧料	一般1000(800)円、65歳以上800(600)円、大高生800(600)円、 中小生500(300)円 * ()内は20名以上の団体料金。 * 障害者の方は500円。ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。 介助者 (当該障害者1名につき1名) は無料。 * リピーター割引 = 会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は 団体料金にてご覧いただけます。
展覧会のご案内	03-5777-8600 (ハローダイヤル)

BRUNO MUNARI

Quello delle Macchine Inutili

夜明けと夕暮れ

それは 地球の周りに 絶え間なく現れる

表と裏の現象

ブルーノ・ムナリ著、阿部雅世訳『ムナリのことば』

(平凡社、2009年) 16頁

ブルーノ・ムナリについて

ブルーノ・ムナリ（1907-1998）は、20世紀イタリアを代表する美術家、デザイナーです。その活動の幅は、絵画、彫刻から、グラフィック・デザイン、インダストリアル・デザイン、絵本、著述と、とても広く、さらに70歳を過ぎる頃からは、子どものための造形教育に積極的に取り組んでいきました。

ムナリの出発点は、イタリア未来派です。1930年代初頭、ムナリは未来派の一員として活動するなかで、〈役に立たない機械〉を発表します。この作品は、動きを美術に取り入れたという点で画期的なものでしたが、その軽やかすぎる作品の佇まいのために、あまり理解されませんでした。第2次世界大戦以降は、具体芸術運動やアルテ・プログランマータといった、同時代の美術の動向と密接に関わり、若い世代の美術家たちとも交流を持ちます。

また、戦前より広告や雑誌の仕事を手掛けていたムナリは、戦後になると絵本やインダストリアル・デザインの作品も多く発表するようになり、イタリアで優れたデザインに与えられるコンパッソ・ドーロ賞をたびたび受賞してもいます。

日本でも1950年代以降、折に触れて紹介されており、またムナリが来日する機会も何度かありました。1985年には、東京のこどもの城で大規模な回顧展が開催され、その際には、ムナリ自身による子どものためのワークショップも行われていました。

いずれの作品や活動にも、ムナリの一貫した美術やデザインに対する考え方が現われているといえるでしょう。それは、誰もが楽しみながら美術やデザインに触れ、そして自分でも創作できるようにするというものです。

展覧会構成と出品作品

本展覧会は、プロローグとエピローグを含む9つのパートで構成されています。7つのパートは、ブルーノ・ムナリが1985年に東京のこどもの城で行った子どものためのワークショップにヒントを得て、テーマを設定しました。

こどもの城での展覧会の出品作品に、イタリア国内の複数のコレクションから拝借した約160点を加えた全300点による、日本初となるブルーノ・ムナリの本格的な回顧展です。

今年の4月に神奈川県立近代美術館葉山で開催した巡回展の最終会場となります。

プロローグ：未来派の頃 Prologo: Il periodo futurista

ブルーノ・ムナリは1907年、イタリア北部の大都市ミラノに生まれました。1926年、ムナリはマリネッティに出会い、未来派の一員となって作家活動を始めます。絵画作品を発表していましたが、1930年代に入り〈役に立たない機械〉を制作します。紙片や板や棒などを細い糸で繋ぎ、天井から吊り下げて、かすかな風の流れてもクルクル動くようにした作品です。

第2次世界大戦以降、多ジャンルに渡って制作するムナリの創造の思考と技術は、この時期に培われていきました。



②
ブルーノ・ムナリ
《無題》
1930年
不透明水彩、厚紙
335×245mm
カーサバルラルテ = パオロ・ミノリ財団



③
ブルーノ・ムナリ
《役に立たない機械》
1934年/1983年
木にシルクスクリーンで着色、
紐、石
2530×310mm
特定非営利活動法人
市民の芸術活動推進委員会

BRUNO MUNARI

Quello delle Macchine Inutili

どんな素材にもファンタジアへのヒントが詰まっており、新しいイメージを生み出す。

ブルーノ・ムナリ著、萱野有美訳『ファンタジア』
(みすず書房、2006年) 130頁

絵はあらゆる箇所が生きている Il quadro vive in ogni punto

ムナリは、第2次世界大戦後、前衛芸術の運動であるMACに参加しました。そこで発表したのが〈陰と陽〉です。すべての色彩と線に同等の役割を持たせて、人の目のなかで色彩の運動を起こすことを目指したのです。



④
ブルーノ・ムナリ
《陰と陽》
1953年
油彩、板
1000×1000 mm
ジャックリオン・ヴォドツ・エ・
ブルーノ・ダネーゼ財団

子どもはすべての感覚で世界を認識している I bambini stanno conoscendo il mondo con tutti i sensi

ムナリは、触感によって言葉では伝えられない多くのものを伝えることができ、私たちはこの感覚を再発見する必要があります。〈読めない本〉では文字は印刷されていません。色彩と触覚だけで物語を想像する本です。



⑤
ブルーノ・ムナリ《読めない本の試作》
1955年、紙、コラージュ、225×225 mm
パルマ大学 CSAC

どんな素材にもファンタジアへのヒントが詰まっている Ogni materiale dà suggerimenti alla fantasia

ムナリは小さなものを拡大するスライド・プロジェクターを見て、今までにない絵画作品の制作方法を考えつきました。フィルムの代わりに、羽根や糸や色つきセロファンや欠片などをマウントに挟んで、壁に映写するのです。

参考図版：
「ブルーノ・ムナリ」
撮影年不詳



考古学のアイデアを美術の領域に取り入れる Trasportiamo il ricostituzione nel campo dell' arte

本来であれば違ったカテゴリーや文脈にある図像などを1枚の紙の上に組み合わせて作品を制作する技法を、コラージュといいます。ムナリ自身もコラージュ作品を制作し、また雑誌のアート・ディレクターとして写真と文章で紙面を構成する仕事もしています。ムナリにとっては、美術作品を制作することとデザインすることとの間で、その制作方法に大きな違いはなかったといえるでしょう。

①《わかったよ。みんな、買うよ ジャンニ・ロダーリ『クリスマスツリーの惑星』のための挿絵の習作》
制作年不詳(1962年) 鉛筆、ボールペン、コラージュ、紙 330×240 mm パルマ大学 CSAC



BRUNO MUNARI

Quello delle Macchine Inutili

文化とは驚き、
つまりこれまで知らなかった事柄から成り立っている。

ブルーノ・ムナリ著、萱野有美訳
『モノからものが生まれる』（みすず書房、2007年）230頁

みんなの美術にたどりつきたかったら Se si vuole arrivare a un'arte di tutti

技術の可能性というものは、誰もが美的な価値を持つなにかを創造できるようにすることにあると、ムナリは考えていました。ムナリの作品は、多くの人が自分の手で、そして道具を介して制作できるように、ムナリの頭のなかにある変換の秘密を伝えるものなのです。



⑥ブルーノ・ムナリ《凹凸》
1985年、金網、400×400×600 mm
特定非営利活動法人市民の芸術活動推進委員会

作品は無限の変化の一つとして出現する Ogni oggetto si presentava come una parte di un infinito modulato

ムナリは、多くの人が美術に参加できることが大切だと考えます。それには簡単な方法で制作できることが必要。その例としてムナリは、スタンプを使って絵本の挿絵を描きました。



⑦
ブルーノ・ムナリ《『みどりずきんちゃん』のためのイラストレーションとレイアウト》
制作年不詳(1972年)、鉛筆、フェルトペン、パステル、スタンプ、紙
230×500 mm、パルマ大学 CSAC

どれほど多くの人が月を見て人間の顔を連想するか Pensate quanta gente vede una faccia nella luna

誰もが意図的に想像力を働かせなくても、あるものから別のものをイメージしてしまう経験を持っているはず。壁や雲や街中の建物を見て、その模様や陰影から人の顔やほかのなにかを連想することは、よくあるのではないのでしょうか。見立てる力を利用したムナリは、縞のある石に自転車を描いて、白い部分を道路にしたりもしています。このような作品を見ていると、自分のなかにすでにあり普段使っていることに気がつかない想像力が、改めて刺激されるようです。



⑧
ブルーノ・ムナリ
《木々》
1993年
ミクストメディア、紙
210×295 mm
パッコリ・コレクション



⑨
ブルーノ・ムナリ
《みたての石》
1985年
縞のある石にペイント
70×40×50 mm
特定非営利活動法人
市民の芸術活動推進委員会

エピローグ：アートとあそぼう Epilogo: Giocare con l'arte

美術とはどういうものを伝えるワークショップを、ムナリが子どもの理解力に合わせて特別に考案したのでしょうか。もしかしたら、普段自分が実践している制作方法をそのまま伝えようとしたのではないのでしょうか。ムナリが開発した遊具を手にとって遊べるよう、展示室に設置する予定です。

関連企画

◎パフォーマンス「風が吹かぎりずっと——ブルーノ・ムナーリのために」

国際的に活躍するイタリア人振付家・演出家ルカ・ヴェジエッティがムナーリに捧げる新作パフォーマンス。

展覧会チケット付きの公演です。ぜひ開演前にお楽しみください。

原案・構成・振付：ルカ・ヴェジエッティ、出演：鈴木ユキオ、竹内英明、美術：吉田 萌、音楽：パオロ・アラッラ作曲「Nothing」

日時：2018年11月30日（金）、12月1日（土） 各日午後6時開演（受付開始：午後4時）

場所：世田谷美術館1階展示室、エントランス・ホール、定員：各日70名

料金（予約／当日）：一般3,000円／3,500円 小・中・高・大生1,500円／2,000円

予約：2018年10月10日（水）午前10時より受付 ※当日精算です。※詳細は当館ホームページをご覧ください。

◎講演会「ムナーリの言葉から考えるデザイン教育」

ムナーリの著作の数々を翻訳している阿部雅世氏に、ムナーリの言葉に込められたデザイン教育の本質について、デザインの仕事やワークショップの実践をもとに語っていただきます。

講師：阿部雅世（デザイナー、ベルリン国際応用科学大学教授）

日時：2018年12月22日（土）午後2時～午後3時30分（開場は午後1時30分）

場所：当館講堂、定員：当日先着140名 ※当日午後1時よりエントランス・ホールにて整理券を配布。

参加費：無料 手話通訳つき

◎講演会「ムナーリの創造思考とその魅力」

現代においても多くのクリエイターに刺激を与えているムナーリの作品。本展覧会のカタログと広報印刷物をデザインした加藤賢策氏に、その魅力をうかがいます。

講師：加藤賢策（LABORATORIES代表、アート・ディレクター）、聞き手：当館学芸員

日時：2019年1月19日（土）午後2時～午後3時30分（開場は午後1時30分）

場所：当館講堂、定員：当日先着140名 ※当日午後1時よりエントランス・ホールにて整理券を配布。

参加費：無料 手話通訳つき

同時開催：

ミュージアムコレクションⅢ 「アフリカ現代美術コレクションのすべて」 2018年11月3日（土・祝）－2019年4月7日（日）

次回企画展：

「田沼武能写真展 東京わが残像 1948-1964」 2019年2月9日（土）－4月14日（日）

お問い合わせ先：

報道関係者用 ※取材および写真貸出依頼

世田谷美術館学芸部 広報担当

Tel. 03-3415-6419（広報直通） Fax. 03-3415-6413

交通案内：

- ・東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分。
または美術館行バス「美術館」下車徒歩3分
- ・小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩10分
- ・小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩5分
- ・来館者専用駐車場（60台、無料）：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分

世田谷美術館 Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2

Tel.03-3415-6011(代表)

展覧会のご案内：03-5777-8600（ハローダイヤル）

www.setagayaartmuseum.or.jp